桜蔭俳話会

第一一九回通信句会 選句結果

平成二十七年秋。 (〇内の数字は、 特選句数で選句の内数です) 選句数は五句、うち特選一句。

1点①人混みに手をつなぎ行く酉の市 4点①絶筆となりし諫言冬の薔薇 、銀杏拾ひ山門へ一礼す 秀一

2点②真二つに割る焼芋の黄金色

受診終へ年相応と秋深し

ツル子 弘子

3点③栗爆ぜて地球の戦なほ続く 2点①ねぢくれた根性放つとけ霧晴るる 4点①舞う落葉赤い前だれ六地蔵 才美 明美

2 点 時雨るるや葉の型模様山路かな 鶏頭を飾ると散るは黒い種 邦子

花数を日記の隅へ白木槿 忠夫 友子 直子

立ち寄れば振舞ひ酒や秋祭 またひとり落葉の中で友おくる

幸子

のり子

1点 ②太刀魚の一直線の黙ならぶ 複眼に指先回し蜻蛉とり

3点 1点 1 太陽のパワー吸ひこみ花カンナ 念仏に底力ありて秋彼岸

> 眞三 幸枝

1点 壊される家の奥見ゆすがれ菊

2点 文化祭小さき紳士と声交はす

眞二

ヤエ子 安紀子

友子

4点 穏やかな母の寝息や虫時雨 土器の欠ヶ榾火の嘗めし一万年

才美

眞壽

2点

1点 落葉掻舗道の脇に花ひとつ

秋耕や爺よつこらと腰のばす 忠夫 安紀子

1点 栗の里移動八百屋の通り過ぐ 鳥つぐむ見れば垣根のピラカンサ 幸

6点②つきあいの長き歯医者や柚子黄なり カーナビの声の消されし谿紅葉 ヤエ子

3点②自転軸傾く星を雁渡る 4点①秋日傘たたみぬかづく墓前かな 幸子 明美

4点 乳呑み児の笑ひかけくる敬老日 秀一

人よりも人らしく在り案山子かな 日菊を一枝もらひ昼の雨 のり子 邦子

遙かまで入日に染まる柿の里 弘子

夏草に吸ひ込まれゆく秋日かな

2点①明日からは高齢免許秋日和 直子 幸枝

> 2点①黄葉を黄金に変へて夕陽かな 秋の雲マッター 気品ある日舞もありし秋のコン 山里や秋の味覚を恣まま 新能奏でる音や虫の声 水 ンを描きけり 邦子 眞三

3 点 8点①いつまでの単身赴任鯊の潮 1 点 かくれんぼ児らと本気や敬老日

2点 泡立草茂れる土手や魚影濃し 陽に透ける古刹の庭の黄葉紅葉

5点 草紅葉野仏に笑みこぼれをり 遠き友二人の文や菊日和

肌寒し大きなクシャミ驚かす

終戦日酸味濃くありハワイ 静寂つく団栗ふみし濁り音 コナ

1 点 2 点 9点④小春日や真綿のやうな子をあやし 七七日墓より生るる秋の蝶

さざんかの花から花へ鳥遊ぶ

蓑虫の糸へ路地裏明け渡す 友子 幸枝 才美 ツル子 眞壽 幸子 ヤエ子 弘子 のり子

咲き競ふ紫の菊我手折る 明美 直子

ツル子 安紀子